

京王線高架化の都市計画案と環境影響評価準備書に対する意見書

氏名

住所

東京都都市整備局都市づくり政策部都市計画課 御中

世田谷区都市計画課 御中

杉並区都市計画課 御中

3月11日の東日本大震災と原発事故で、これまでの生活のあり方から都市計画まで、全てに全面的見直しが迫られています。それにも関わらず、大震災以前と全く変わらない都市計画案と環境影響評価準備書を提示し、住民の質問、指摘に対し、詭弁を弄するだけで回答できない説明に、大きな不安を覚え、以下の意見を表明します。

- (1) 3.11以降、防災と環境が最優先となった今、法定耐用年数に達しようとする八幡山、笹塚高架駅を、耐震補強でそのまま使用する現行計画を白紙に戻し、新宿から調布間の全面地下化、高架地下併用、全面高架の3方式について、防災、環境もあらかじめ評価項目に入れた総合的に再評価をするよう求めます。
- (2) 説明会では、高架地下併用方式を選んだ際の費用積算根拠が開示されません。鳥山北小学校説明会で「明細を出しても住民のご理解を得られない」との住民を愚弄した東京都の暴言を撤回を要求し、積算根拠の情報開示を強く求めます。
- (3) 騒音、振動、粉じんなど電車走行に起因する公害を沿線住民は受けます。さらに、高架方式は長い工事期間、さらに完成後も著しい被害が予期されます。専門家と住民参加のもと、透明性を高くした環境アセスメントの実施を要請します。
- (4) 京王線を利用する沿線住民の視点に立ち、踏切解消と住環境の改善を同時に解決できる全面地下化を実現し、子、孫の代に禍根を残さない事業を求めます。
- (5) その他
